

認知症の人を 支えるために

人として、地域として、行政として、介護者として、当事者として、認知症とどう向き合うか

ふるさと講演

&

シンポジウム

福智町の高齢化率は28%を超え、この数字は今後さらに上昇する見込みです。高齢化が進む中で大きな課題となっているのが「認知症」への対応です。症状の初期から重度までそれぞれの段階において適切な対応が必要で、地域全体でこの課題に取り組んでいかなければなりません。認知症を予防することはもちろん、それぞれの立場での役割を再認識するために、認知症シンポジウムを開催します。

2015
2/15



【会場】福智町地域交流センター 福智町伊方4478番地1

【申込・問合先】福智町社会福祉協議会 TEL:0947-22-6631 FAX:0947-22-6678
E-mail:fukutimatiskh@cap.ocn.ne.jp

10:15～開会セレモニー / 10:30～第1部 ふるさと講演 / 13:00～第2部 シンポジウム

※ 昼食時には、「方城すいとん・おにぎりセット」を特別価格（100円）で販売します。



10:30～12:00 【第1部】ふるさと講演

「認知症は予防できる！」

講師：清原 裕 氏（九州大学大学院教授・医学博士）

福智町赤池出身。九州大学大学院で糟屋郡久山町における疫学調査（久山町研究）において、脳卒中・虚血性心疾患をはじめとする動脈硬化性疾患および悪性腫瘍の発症率、死亡率、危険因子について研究中。久山町住民の疫学調査から得られた臨床・遺伝子情報をもとに、生活習慣病の環境要因と関連遺伝子について解析している。また、市民公開講座などの講師も積極的に務め、認知症全般にかかわる予防手段の開発などの啓発活動を行っている。

13:00～15:30 【第2部】シンポジウム

「福智町でできること～ドイツから学ぶ認知症対策～」

パネリスト：ペトラ・ヴィーンズ 氏（ソーシャルワーカー）

シンゴ・シマダ 氏（デュッセルドルフ大学教授）

ペーター・ヴィーンズ 氏（介護老人ホーム施設長）

バーバラ・ヘフト 氏（精神科医師）

日本と同様に高齢化率が高いドイツでは、「認知症ネット」と呼ばれる市民参加型の医療支援など、高齢者支援に関する先駆的な改革が行われています。このドイツで活躍する4人を招き、鳴野 勝 氏（福智町長）・中野 雅浩 氏（福智町社会福祉協議会会長）とともに、福智町が目指すべき“未来”を考えます。



Shingo Shimada



Petra Wiens



Barbara Hoft



Peter Wiens

